

⑨日本国特許庁(JP) ⑩特許出願公開  
⑪公開特許公報(A) 昭54-79892

⑫Int. Cl.<sup>2</sup>  
B 24 C 1/06

識別記号 ⑬日本分類  
74 K 11

⑭内整理番号 ⑮公開 昭和54年(1979)6月26日  
6660-3C

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑯亞鉛メッキ鋼板等のメッキ層除去方法

東芝タンガロイ株式会社内

⑰特 願 昭52-146141

⑯発明者 東方幸男

⑰出 願 昭52(1977)12月7日

川崎市幸区堀越1丁目7番地

⑰発明者 軽部光一

東芝タンガロイ株式会社内

川崎市幸区堀越1丁目7番地

⑰出願人 東芝タンガロイ株式会社

川崎市幸区堀越1丁目7番地

明細書

1 発明の名称

亞鉛メッキ鋼板等のメッキ層除去方法

2 優特請求の範囲

金表面に亞鉛メッキ層等が被覆されている鋼板において、耐候性向上のため、メッキ層の一部を除去するにあたり、60～80メッシュの炭化珪素粒、0.0粒等を8kg以上の圧力で吹付け加工処理することにより、該メッキ層の一部を除去したことを特徴とする亞鉛メッキ鋼板等のメッキ層除去方法。

3 発明の詳細を説明

本発明は、亞鉛メッキ鋼板等のメッキ層除去方法に関するもので、除去部分にやすり、砂などがあらず、またその作業が簡単に行ない得るようにしたものである。

従来、この様の亞鉛メッキ鋼板等は、メッキ層中に形成される工程を経るため、全表面にメッキ層を有するのが普通である。

しかし、用途によつては、片面のみあるいは、

一部分メッキ層を有しない鋼板も要求されることがある。これは、一般に直接に伴なりものであり、全表面にメッキ層を有する鋼板では程表面のメッキ層除去作業として問題となつているものである。

そこで、本発明は、上述の点に鑑みられたもので、全表面に亞鉛メッキ層等が被覆されている鋼板において、メッキ層の一部を除去するにあたり、60～80メッシュの炭化珪素粒、0.0粒等を8kg以上の圧力を吹付け加工処理することを内容とするものである。

以下、本発明亞鉛メッキ鋼板等のメッキ層除去方法における一実施例について説明する。

亞鉛メッキ鋼板は、一般に耐食性がよく、亞鉛の定着性もよいため、機械の用途に適用されるが研磨加工を伴なう分野では、メッキ層が片面あればよい場合がある。しかし、従来のようサンドペーパーによるメッキ層の除去作業では、目的から問題があり、また、きさげ等によつてはキズの問題がある。

これに対し、本発明では、炭化珪素、 $\alpha$ 、 $\beta$ 、  
ガラススピーズ等の粒子を吹付けることによ  
りメタル層の除去をするものである。したがつて  
メタル層の片面全面あるいは、その一部を確実に  
しかも簡単に行なえるものである。

この場合、一部除去のときは、除去しない部分  
をテープ等でマスキングすることにより得られる。  
また、粒子の大きさは、メタル層の条件により異  
なるが、一般に粒 60 ヘリ 80 メッシュのものが適  
当され、その圧力は、5 倍以上一般には、3~4  
kg の範囲から選択される。

なお、片面全面を除去する場合には、鋼板のメ  
タルライン中に組込むことも可能である。これは、  
片面のみのメタル作業を避けた場合そのメタル層  
に関連する装置の施設化において経済的負担が大  
きく本発明による除去工程を挟り入れた方がより  
経済的であること、また鋼板にも特別キズ、歪等  
が発生しないことからである。

以上説明したように、本発明の直結メタル鋼板  
等のメタル層除去方法は、ノズルから吹付けるよ

特開昭54-79892(2)  
うにすれば簡単に実現できるものであり、特にメ  
タル鋼板のメタルライン中にも簡単な装置として  
組込むことができることから、工業的価値が大  
いという利点を有する。

権利出願人　東芝タンダロイ株式会社